

彩の国連携力 育成プロジェクト

YYI2109 薬剤学研究室

黄田成章

概要

1

・正式名称は「彩の国大学連携による住民の暮らしを支える連携力の高い専門職育成」

2

・埼玉県立大学・埼玉医科大学・城西大学・日本工業大学の4つの大学の学生が参加。

3

・少子高齢化が進む埼玉県において、地域住民の質の高い暮らしをどう実現していけばよいのかという課題に対して、自らの専門性を活かし、他の専門領域と協力しあいながら、解決策を考え、「連携力の高い専門職」の育成を目指すプロジェクト



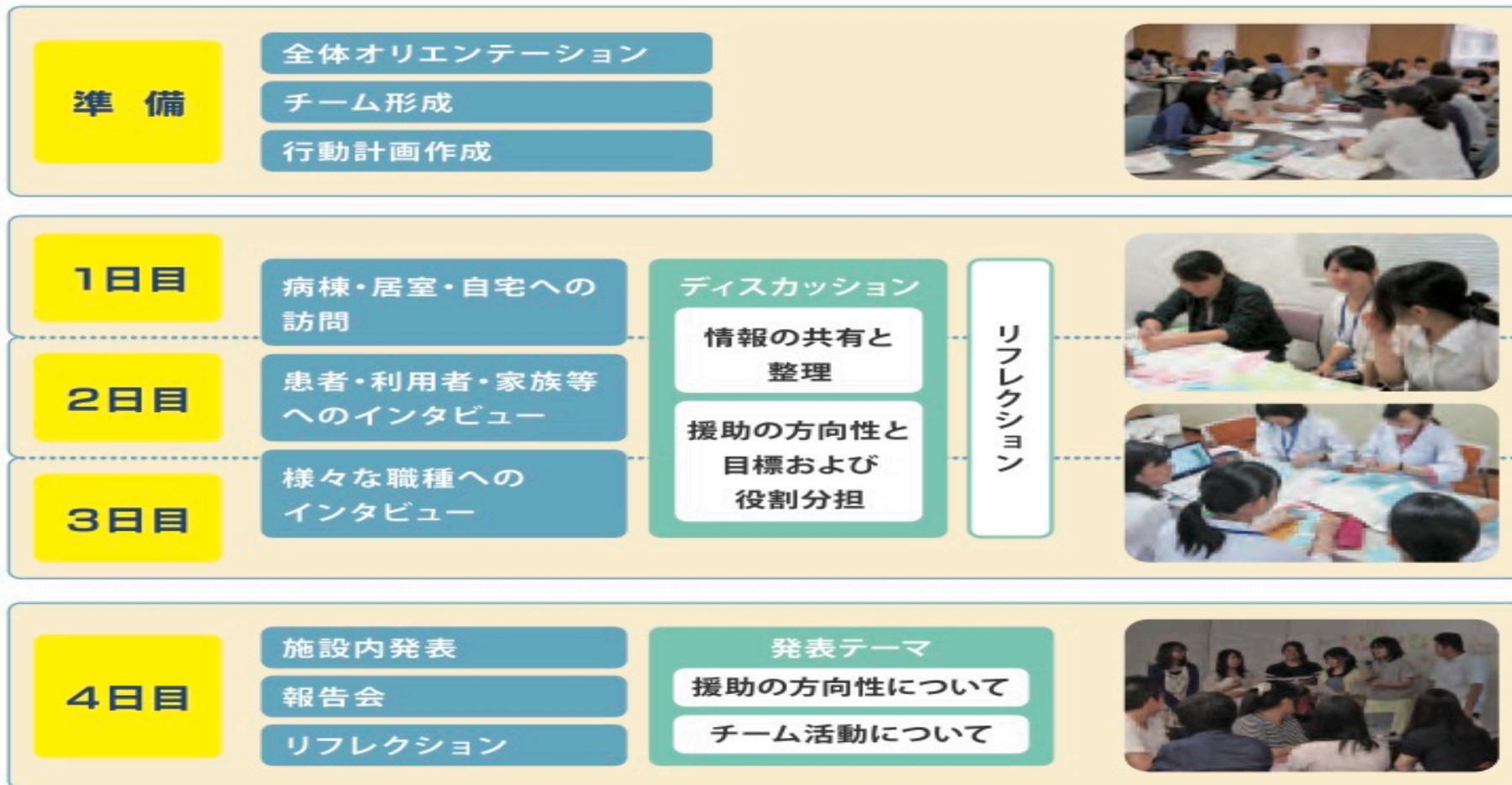
彩の国連携科目

IPW実習について

Interprofessional work (IPW : 専門職連携実践)

4大学の異なる分野を学ぶ学生が6名前後のチームとなり、保健医療福祉の現場で対象者・利用者・職員等に対するインタビューやディスカッションを行い、地域でより良い生活を送るための最適なケアについて検討・提案をする実習

IPW実習のプロセス



富家病院

所在地：埼玉県ふじみ野市

病床数：202床

慢性期病院

理念：されたい医療、されたい看護、
されたい介護

ナラティブ・ホスピタルについて

ナラティブ：直訳で『物語』

病歴だけではなく、患者さんのいままでの人生の『物語』を知ることが大切だという考えのもと、患者さん・家族・病院スタッフでその人の『物語』を紡いでいこうという取り組み

筋萎縮性側索硬化症(ALS)

の患者**A**さん

～**A**さんに自信をつけてもらおう！～

実習地：富家病院

チーム名：ちゃんちゃん

チームメンバー：県立大・看護/県立大・臨床検査/県立大・理学療法/医科大・医学/城西大・薬学/日工大・建築

症例紹介

実習内容

違和感

葛藤

問題点

アプ
ロー
チ

まとめ

55才 女性 **診断名**：筋萎縮性側索硬化症（ALS）

現病歴：平成15年顔面麻痺により症状を自覚。平成30年X月にサ高住に住んでいたが、呼吸状態が悪化し1カ月後に当院に入院。現在入院80日程経過。

現在の体調：Ⅱ型呼吸不全。常に息苦しさあり。週1回の人工呼吸器利用により呼吸を安定。眠剤の投与は検討中。嚥下能力低下。MSTから1日に2000kcal摂取するよう指導をうける。



症例紹介

実習内容

違和感

葛藤

問題点

アプ
ロー
チ

まとめ

主訴：食事・身支度等に時間がかかりすぎてしまう。

Hope：家に帰りたい。

Need：身の回りのことを楽にできるようにする。

服薬状況：服薬なし

家族構成：夫、長男、長女、次男

職業：病前は介護職をしていた。



症例紹介

実習内容

違和感

葛藤

問題点

アプ
ロー
チ

まとめ

性格：周りに気配りする優しい方。気を遣いすぎて疲れてしまうのではないかと心配される面もあり。お話好き。

趣味：お神輿担ぎ

生活範囲：新館2階のみ車いすで自由に移動できる。外出好きで図書館など病院内のいろいろな場所に興味がある。



【1日目】

- ・オリエンテーション
- ・Aさんへの挨拶
- ・病棟看護師長さんのインタビュー
- ・臨床心理士さんのインタビュー
- ・Aさんのインタビュー(1回目)
- ・担当作業療法士さんのインタビュー

初体面！

【2日目】

- ・MSWさんのインタビュー
- ・Aさんのインタビュー (2回目)
- ・臨床検査技師さんのインタビュー
- ・薬学師さんのインタビュー
- ・担当臨床心理士さんのインタビュー
- ・Aさんのインタビュー (3回目)

【3日目】

- ・ナラティブムービー作成
- ・パワーポイント作成
- ・ディスカッション
- ・発表



Aさんのインタビュー

<1回目>

自己紹介（お互いの）

家族のお話（家族構成、どんな人たちか）

ごはんが食べれない

呼吸がしづらい

<2回目>

家族の話（お子さんと長男のお孫さんのこと）

自身のこと（生まれ、育ち、旦那さんとの出会い、

家族との思い出など）

好きなもの、趣味について



<3回目>

自宅のお話（どんなところか、環境とか）

Aさんの悩み（自宅に帰りたけれど...入院生活における
ストレスや不安）

初日よりAさんの核となる問題、主訴が見えてきた。



~Aさんへのインタビューで感じた違和感~

主訴やHopeなどのケアプランを考えるうえで必要なことを聞くべき派

VS

Aさんの好きなことや家族のエピソードを聞いてまずは関係を築く派

看護



理学



医学



検査



薬学



建築



症例紹介

実習内容

違和感

葛藤

問題点

アプローチ

まとめ

Aさんの望みを早く知ること
で、個別性に合わせた良い
関わりができる。それを
聞かない限りは始まらない
のでは？

By看護

とにかく早くAさんの
主訴やHopeを聞き出す
ことが優先。

By理学



症例紹介

実習内容

違和感

葛藤

問題点

アプローチ

まとめ



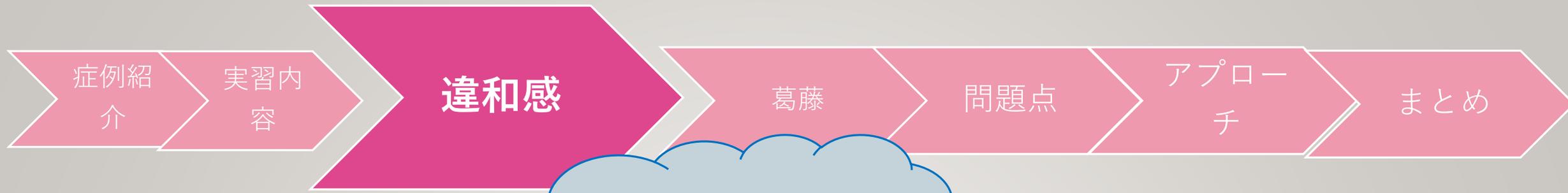
初対面のAさんから主訴や
Hopeを聞き出すのは難しいだ
ろう。By医学



ケアプランを立てるには
その人の人生、ライフス
タイルを知ることから必
要！

By建築

関係を構築していくうち
にAさんと深い話ができ
る。Aさんの想いを知り
良いケアプランを立てた
い。By薬学・検査



- チームメンバーの意見を聞いて“ナラティブ”に関わっているからには、Aさんがどんな人かを知ることの方が重要だと気付いた。
- 多職種のメンバーで話したからこそ、看護職が日頃の忙しさから忘れてしまいがちな考えを思い出すことができた。
- 自分が今まで不安に思っていた考えを、メンバーの意見を聞くことで考えを改めることができた。

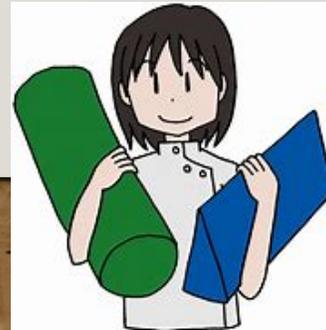


~Aさんの目標設定時に起きた葛藤~

AさんのHopeを叶える
ために在宅復帰を最終目
標に！派

VS

家族やAさんの状態を踏まえて在宅
復帰を最終目標に掲げなくてもい
いのではないか派





「自宅に帰りたい」という最終目標を掲げたほうがケアの方向性や目的が定まるのではないかな？
By看護

みんなは在宅復帰を重要視しないの！？

私も在宅復帰を最終目標にしたい！
By検査

看護の意見に同調したつもりがうまく伝わらなかった。看護は自分だけ違う意見と思い不安に・・・



症例紹介

実習内容

違和感

葛藤

問題点

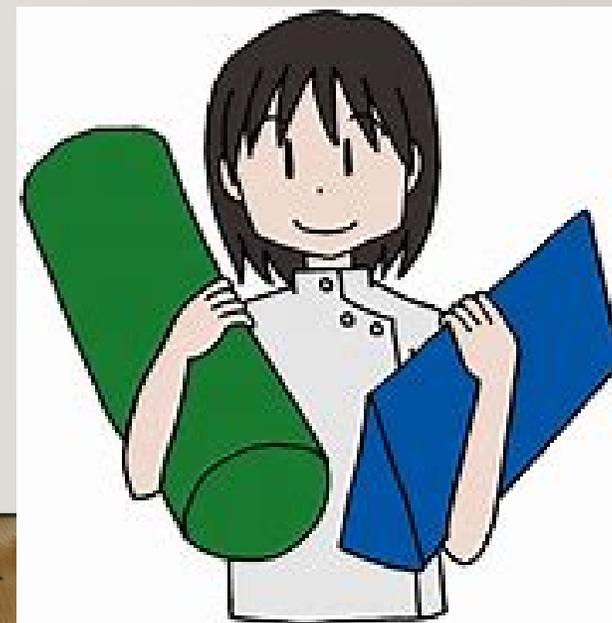
アプローチ

まとめ



最終目標を掲げる必要はあるのかな?? 最終的な選択肢の一つに在宅復帰を置ければいいんじゃないか? By薬学

私は在宅復帰を「最終」にしてしまうとその後はどうなるの? By理学





いきなり在宅に環境を変えてしまうのはよくない！！ By建築

家族の負担を考えると在宅復帰をめざすならまずは患者様に自信をつけてもらうことが大事！！ By医





本音の討論！！

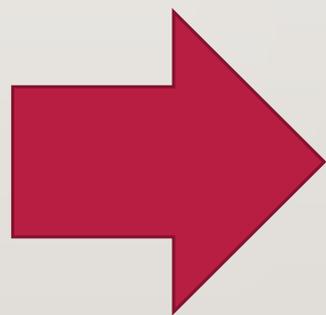
まずはAさんの悩みや病院生活での不安を取り除き、Aさんに自信をつけてあげることで、在宅復帰という道も選択肢の一つとして視野を広げられるのではないかと。

**Aさんの今の生活を良くしてあげたいという気持ちは同じ！
より結束力が高まるきっかけに！！**



不安とストレスによる問題点

- 環境の変化に弱い
- 心配性・不眠（不安）
- 嫌な患者になりたくない
- 病室空間（音が気になる）
- 動作に時間がかかる

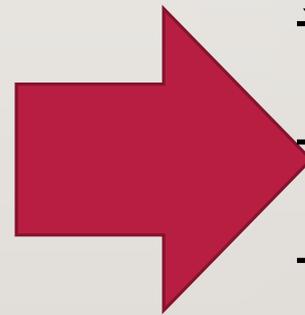


入院生活における
ストレスや不安の
軽減



#身体機能的な問題点

- 能力低下 (耐久性・握力・呼吸機能・嚥下機能)
- 低栄養リスク
- ADL低下 (食事・入浴・整容・車いす移動など)
- 動作に時間がかかる

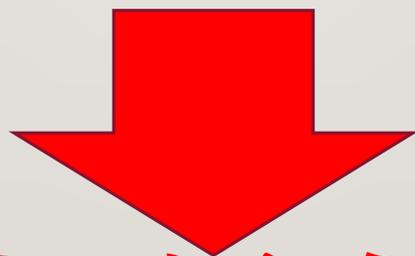


身体機能を維持・向上させ、身の回りのことを少しでも楽に行うことができるように。



①入院生活におけるストレスや不安の軽減

②身体機能の維持・向上させ、身の回りのことを少しでも楽に行うことができる。



Aさんに自信をつけてもらうことを目指す！！



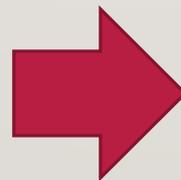
①入院生活におけるストレスや不安の軽減

真っ暗でないと言眠れない
夜遅くまでTVをつけて
いるのは周りに迷惑でないか



シェードの利用
防音カーテン、遮光カーテン

ストレス解消方法



アートセラピー・家族との外出
毎日できたことの記録
(自信に繋げる)
病院内でお気に入りの場を見つける
→一人でリラックスできる環境



②耐久性を向上させ、身の回りのことを少しでも楽に行うことができる。

リハビリの継続

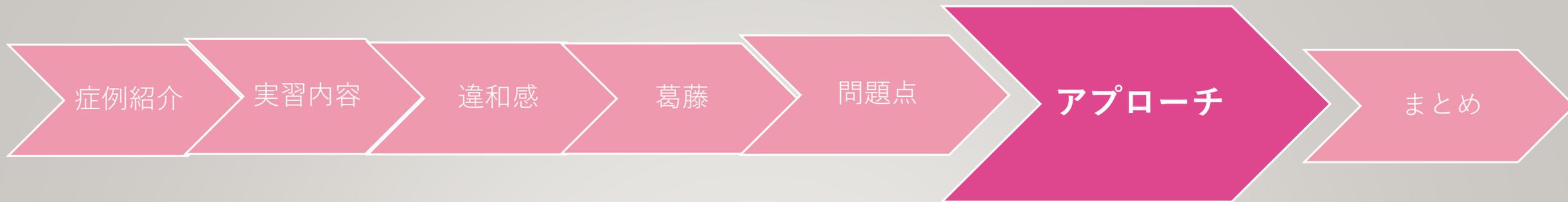
これまでは食事に焦点を当てた介入が多かったため、今後は病棟内を車椅子移動自立できるように耐久性の向上を目指す。

検査値の経過観察

CK値は筋肉が障害された時に高値となるため、ALSの進行具合の判断材料となる。

日常生活動作の見直し

食事・整容などの動作の仕方を効率よく楽にできるやり方になるよう一緒に考える。



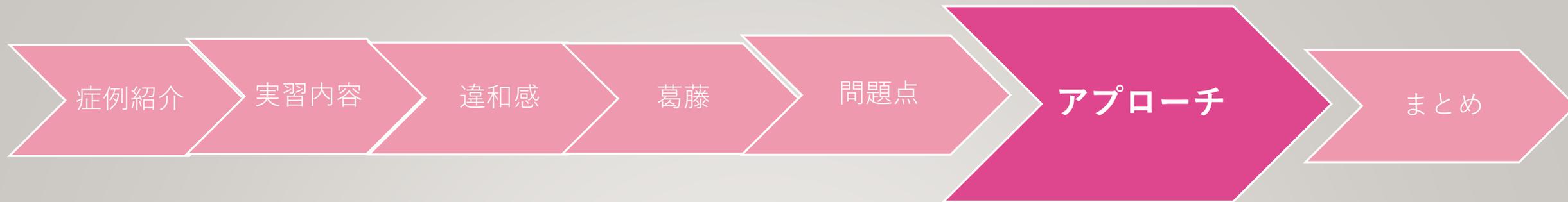
②耐久性を向上させ、身の回りのことを少しでも楽に行うことができる。

・ 自助具の使用

グラスを手に固定
させる道具

手の甲で支えられる
スプーン

ゼリー・ペットボトル・
直径5.7cmまでのキャッ
プに使える
オープナー



②耐久性を向上させ、身の回りのことを少しでも楽に行うことができる。

- ・コミュニケーションツールの利用
構音障害や筋萎縮で会話によるコミュニケーションが困難になった時に備えてパソコンの操作の練習。
毎日自分に出来たことを書いてもらい自信に繋げてもらう。

鉛筆やペンを手に固定させる道具やキーを押して言葉を作り音声で読み上げてくれる携帯用会話補助装具
「トーキングエイド」の利用もコミュニケーションを助ける。

利用者中心の視点・姿勢

- ・Aさんのことを患者さんと見ていたけれど、接していくうちに、一人の人間（女性）として変化した。
→Aさんの願いをかなえてあげたいと強く思う
- ・短期間で患者さんから信頼を得ることができた気がする＝嬉しい
- ・接し方がわからず、初日は頷くだけになってしまったが、話していくうちに、自分からもっとコミュニケーションとりたくなった。

第二の葛藤

問題点

連携・協働

相互理解

- ・患者さんに寄り添う気持ちだけが重要ではなくて、短期間での目標達成（問題解決）に向けて動くことも大切
- ・分野ごと考えが違う
- ・みんなが患者さんのことを思っている。
- ・みんな考えていることは一緒だった。

チーム形成

- ・みんな笑顔
- ・呼び名を決めた
- ・みんな協力的
- ・人柄
- ・一人で作成するよりも、メンバーからのアドバイスでよりよいものが完成する。
- ・信頼して任せられる
- ・ムードメーカーの存在

学び得た事

01

- ・他職種の考え方を理解することの重要性を感じることが出来た。

02

- ・患者さんに寄り添うことの大切さを実感することが出来た。

03

- ・臨床現場のシビアさを体感することが出来た。